

横江の虫送り（白山市指定無形民俗文化財・昭和39年11月1日指定）

◇「虫送り」って何？

虫送りは、農作物に害を及ぼす虫を追い払い、五穀豊穡を祈願する農耕行事です。古くから全国各地で行われていましたが、次第にその姿を消しつつあります。



白山市でも、以前は多くの地域で実施されていましたが、今でも継承している集落はごくわずかになりました。

横江町の虫送りは、およそ300年前から実施されていると言われていたますが、正確なことは不明です。ただ、江戸時代に「加州御郡奉行に願い出た」という記録が残っているそうなので、それ以前から行われていたことは間違いなさそうです。

◇いつ実施しているの？

「虫送り」を実施する日は、以前は毎年7月21日と決まっていた。現在は、海の日の前日の日曜日に開催しています。

◇どんな様子なの？

当日は、宇佐八幡神社を出発し、桶胴太鼓を先頭に行列の人々が松明を灯して従います。この日は、御経塚や番匠など、他の集落の太鼓の参加もあり、田んぼを広く回って神社近くの火縄のアーチに集まります。

太鼓が集結すると山形の両端に点火され、中央の「虫送」の字をくっきりと燃え上がらせます。



アーチの前で太鼓を激しく叩いた後、笛の合図で太鼓は火をかいぐって神社境内へ向かって走り出します。

松明の火は神社の境内で大かがり火に点火され、青年団の人たちは、火の粉を浴びながら狂ったように太鼓を打ち鳴らします。その様子は、夏の夜の火祭りにふさわしい光景です。



横江町では、虫送りが終わった後、神社の境内で子ども相撲が開催されています。